第2課　論争

【暗唱聖句】

「律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである」ヨハネ1:17

【今週のテーマ】

初代教会は主にユダヤ人で構成されていたため、異邦人クリスチャンが増えるに従って、割礼問題を代表とする様々な問題が起こってきました。何が問題であり、どのように解決されるべきだったのかと考えます。

【日曜日・更に勝った契約】

「しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです」ヘブライ8:6

旧約聖書の宗教と新約聖書の宗教では何が異なり、何が同じなのでしょうか。最も大きな違いは、旧約時代の人々はメシアを待望していたのに対して、新約時代の人々はそのメシアが到来したことでしょう。そして、メシアなるイエス・キリストを信じ、受け入れるかどうかが問われました。

　また、旧約時代はメシアを象徴する様々な犠牲の儀式が行われましたが、新約時代は実態であるメシアが来られたことにより、それを象徴していた犠牲制度は廃止されることになったことも大きな違いです。この点について、ヘブライ8:6では「しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです」と説明しています。

実体が来られ、その働きを開始された以上、それを象徴していた犠牲制度や大祭司のとりなしなどの働きは必要なくなったわけです。

　ただし、神様の品性を表している道徳律（十戒）の中身については、旧約時代も新約時代も変わることはありません。また、ローマ書におけるパウロの大きな目的の一つは、ユダヤ教からキリスト教へと移行に伴うことを伴うユダヤ人と異邦人に理解させることにありました。ユダヤ教の背景がない異邦人にはわかりやすい説明が必要でしたし、また長年続けられてきた宗教儀式や考えを変えることは大変なことですので、その意味で、ユダヤ人クリスチャンにより大きな意識改革が求められました。

【月曜日・ユダヤ人の律法と規則】

レビ記には、様々なユダヤの規則、規定、儀式について定められた事柄が記載されています。これらの律法は、便宜上、道徳律、礼典律、民法、諸規定、健康に関する法などに分けることができます。

道徳律…十戒がこれにあたります。人類の道徳的な要求事項を10にまとめたもので、神様の愛のご品性が反映されています。

礼典律…聖所の儀式に関する規則を定めたものです。キリストを象徴する犠牲の動物が捧げられましたが、本体であるキリストが十字架にかけられた後、守る必要がなくなりました。

民法…市民が当局や同胞とどう関わるかをさだめたものですが、他国に支配される中で実効性を失っていきました。

健康に関する法…ユダヤの独特な法律に食物規定がありました。これは他の律法とも重なっており、汚れた食物と清い食物を明確に分けていきました。またこれらは衛生的な面や健康面にも配慮されたものでした。

【火曜日・モーセの習慣に従って】

「ある人々がユダヤから下って来て、「モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」

と兄弟たちに教えていた」使徒15:1

ファリサイ派から信者になった人々の中に、異邦人の信者に対して自分たちと同じようにモーセの慣習に従って

割礼を受けなければ救われないと主張するものたちが現れました。これは教会内で大きな論争を巻き起こすこと

になります。特に、異邦人への文化適合を重視するアンティオキア教会と、律法の厳格な遵守を重視するエルサ

レム教会との間で論争を起こりました。このような論争が起こることは容易に想像できることでした。キリスト

の教えが旧約の教えとは全く切り離されたものであるならばまだしもそうではなく、キリストの教えこそが正当

な神の教えを導くものであり、それはイスラエルの民に与えられていた教えを正しく継承した上で与えられたも

のだと捉えられていたからです。

さて、そこで、紀元48～49年頃のエルサレム会議が開かれ割礼について議論されました。そして、最終的に

は割礼は必要ないことで合意が成立します。そもそも割礼とはヘブライ語でブリットと言いますが、これは「契約」を意味する言葉です。創世記17:10「あなたたち、およびあなたの後に続く子孫と、わたしとの間で守るべき契約はこれである。すなわち、あなたたちの男子はすべて、割礼を受ける」とあるように、神様とイスラエルとの間の契約のしるしとして行なうようになりました。しかし、新約時代に入り、イエス・キリストが十字架を通して新しい契約を結んでくださったわけですから、もはや契約のしるしは必要としないわけです。あえて、わたしたちがすべきことを挙げるなら、この十字架を信じることを公に表明するバプテスマを受けることということになるでしょう。

　また、この一連の出来事で重要なのは、パウロが影響力のある使徒であったとしても、強引に自分の考えを押し付けるのではなく、祈りながら、教会に問題の解決をゆだねて、兄弟たちと共に心を合わせて神様に知恵を求め、正しい解決を行ったことです。

【水曜日・異邦人信徒】

一部のユダヤ人クリスチャンたちから、ユダヤの律法と儀式がキリストの宗教儀式と結びあわされるべきだと主張しました。そこでこの問題を解決するために、ユダヤ会議が開かれましたが、結論として彼らの主張は退けられることになりました。その際に、パウロは次のような言葉を語っています。

「なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか」使徒15:10

　異邦人クリスチャンたちに対して、自分たちがいかにも正しく律法を守ってきたかのように、あなたがたも守るべきだと主張していますが、そう主張している彼ら自身、実は律法を守り切れてはいませんでした。それを軛とさえ呼んでいます。これはまさに欺瞞であり、自分たちが神から先に選ばれた特別な民として、優位に立ちたいという高慢さも見え隠れしました。

異邦人クリスチャンたちに対してそのような軛を負わせるべきではないという結論は、同時にユダヤ人クリスチャンたちにとっても、これまで負いきれなかった軛を下すことになるのでした。結局のところ、この論争は異邦人クリスチャンの問題ではなく、ユダヤ人クリスチャン自身が抱えていた問題を解決するために必要だったのです。

　また、大切なことは、このエルサレム会議で論点となったのは、割礼や礼典律、数々の諸規定などであり、道徳律である十戒が問題とされたわけではないことと、異邦人クリスチャンに対して、偶像に捧げられた肉や血、絞め殺した肉を食べてはならないとか、みだらな行為を避けるようにということが付け加えられたことです。人は食物で救われるわけではありません。では、なぜこのような文言を最後に付け加えたのでしょうか。これはそのことを大切にしてきたユダヤ人クリスチャンたちが不快に思うことがないようにとの配慮でした。異邦人クリスチャンたちも、ユダヤ人と食事を共にできるようにするための配慮だと考えられます。

【木曜日・パウロとガラテヤの信徒たち】

エルサレム会議では明快な結論が出ましたが、それを快く思っていない人たちは少なくありませんでした。そして、救われるためには割礼を受け、律法を守るべきだという主張は決して小さな問題ではありませんでした。というのは、このような間違った教えは、キリストの福音そのものを否定することになるからです。また、このような教えを主張する人々が教会を混乱させ、教会の一致を妨げていました。それがまさにガラテヤの教会でした。パウロはガラテヤの教会を非常に深刻にとらえていました。そして、同じ間違った教えが教会の中に侵入することを心配してローマの信徒への手紙を書いたのでした。

　しかし、同時にこのようなパウロの手紙を盾に十戒も守る必要がないと結論づけるのも読み込みすぎです。何が問題の中心にあるのかを正しく理解することが大切です。